

8・6ヒロシマー8・9ナガサキ感想集

8・6広島行動に参加させていただきました。午前中の行動には、たった75年前にこの街を襲った惨劇を風化させてはならない、繰り返させてはならないという民衆の思いが結集していたと思います。そのためにも、日帝植民地主義の責任の所在や戦争のむやみな長期化を招いた反省を明らかにするとともに、民衆の立場から反戦・反核を断固として貫き通す必要性があることを強く実感しました。この犠牲者を追悼する気持ちを忘れないようにするためにも、ただ黙っているのではなく積極的にアピールをしていかなければならないのではないのでしょうか。

関西学生 M・R

今年はじめて8月6日に広島に行きました。平和祈念式典の様子はテレビで見たことがありましたが、テレビに映らないところで集会やデモをしている人たちがいることは知りませんでした。原爆ドーム前で朝から行われたヒロシマ・アピール集会の中に「広島市民」と名乗るプラカードを掲げた人たちが立っていました。「主張は違う日に」「お静かに」などの文言が書かれていました。大学で知り合った友人は、祖母の代からの広島市民です。彼女は、核廃絶を明確に示さない首相の発言に「腹が立つ」と言っていました。この日広島では各団体が集会を行っていました。参加する人たちにはご高齢の方が多いです。このままいくと、数十年後にはこのような集会さえ行われなくなり、ますます容易に戦争を始めようとする風潮ができあがってしまうという危機感を覚えました。広島に行ったことで、本当の平和を実現するための人々の行動を絶やしたくないと強く感じることができました。

京都大学 D・A

今回の広島における集会とデモは、ソーシャルメディアによって拡散され物議をかもしている。その内容の大抵がネットウヨクによる「集会・デモの日ではない」「慰霊の日を邪魔するな」などの死者を盾にした卑劣な言説であるが、一方で、私は、八月六日という日は、慰霊に絞ってよかったのではないかという思いもある。というのは、八月六日に集会・デモをやらなければならない、または慰霊の日として位置付けなければならないといった絶対的な理由はないからである。今回の集会では、沢山の労組や団体が参加し、発言していたが、なかには全く八月六日という日に関係のない発言もあり、内容が相当類似しているものが多かった。私自身、このようなことをしているようでは、外部からの批判は免れ得ないように思える。今回の8・6広島は、慣習化した集会やデモのなかで左派内にだけ聞こえのいい言説で収まっている状態を新たに捉えなおすものとして位置付けなければ、日本の左派はますます後退を強いられるだろうと感じる。

関西学生 S・K

気候変動や緊張する国際関係、世界的な格差の拡大などがニュースで取り上げられるたびに、私は未来が徐々に失われていくような気がして底知れぬ閉塞感を抱いていた。恐らくこの閉塞感は同時代人の多くが抱えているもの（と思われるが、皆自分の力でどうにか生き抜くしかない現状を受け入れており、自分自身諦めがあった。しかし、8.6ヒロシマ大行動に参加して、同じ問題意識を持つ全国の同世代の若者が声をあげるために集まっているという事実を知り大変勇気づけられた。現に存在する社会は変わらない、変えられないなんてことはないんじゃないかとさえ思えた。ただ静かに祈っているだけで平和が実現されるのなら世界はとっくのとうに変わっているだろう。しかし現実はそのようになっていない。支配階級の特殊意思ではなく、一般意志が実現されるための真の政治参加を自分たちの手に取り戻すために、とにかく集まって声をあげることが重要なんだと強く実感した。

関西学生 S・D

私は今回初めて8.6広島デモに参加したものです。広島デモは毎年ニュース番組でも取り上げられるので以前から知ってはいましたが、どこか他人事としてとらえていました。しかしこの度、中核派やその他の団体の方々の主張を聞いて、様々な問題を認識させられました。広島大行動では、ただ「反戦・反核」を訴えるだけでなく、改憲を目指す安倍首相に対する弾劾もおこないました。広島市民(?)の方々の多くは式典中のデモに反対しているようですが、本当にそれでよいのでしょうか?「慰霊の日」にするべきことは、改憲を目指し、コピペ原稿を読み、原爆被害者ではなく汚職議員を式典に出席させる安倍首相の話を黙ってきていることでしょうか? 真に被爆者を思い、平和を求めているのが誰なのかは明白だとおもいます。

京都大学 F・F



広島・長崎闘争に参加して

今夏、広島闘争ならびに初めて長崎闘争に参加し、広島における平和記念式典からの市民排除策動と対決した集会や広島・長崎現地学習を通して、平和の構築は民衆が切り開いてきたものであることを何よりも学びました。朝鮮戦争下の被爆者によるゲリラ集会、のちにノーベル平和賞を受賞する佐藤栄作広島来訪への被爆者青年同盟による実力糾弾、そして朝鮮人・中国人被爆者の状況調査を行う市民活動など、私たちはそれらの実践や精神に学び、引き継ぐ反戦・反核・国際連帯運動をつくらなければならないと強く思います。だからこそ広島市や「普通の市民」として登場し集会妨害を行なった右翼による「平和」や「祈り」の意味収奪は許せません。また『はだしのゲン』を再読を私は考えています。闘争参加・学習を経て新たに学ぶものが多いと思います。

関西・学生

広島・長崎闘争に参加して

今夏、私は自身4度目の広島闘争と初めての長崎闘争に参加しました。広島では、拡声器規制条例の議論の中で、良くも悪くもヒロシマ大行動への社会的注目度が年々高まり、同時に同団体の裾野が広がっていることも感じました。米中対立が激化し、核兵器使用が目前に迫るなか、反戦反核の訴えはますます必要とされています。今回の闘争で、平和式典の目的を慰霊に絞ろうという日帝支配階級とそれに追従する右翼の思惑を見事粉碎し、全ての核を葬り去る方向へ前進できたと感じます。長崎では、朝鮮人被爆者の問題など、日帝がアジア人民に対して行った戦争犯罪について理解を深めることができました。原爆は、その被害ばかり強調されがちですが、加害にも目を向けなければ、戦争は繰り返されます。私達労働者階級も、日帝の加害に荷担してしまったことを認め、だからこそ戦争を止め、ひいては戦争の原因となる資本主義を打倒する使命を果たさなければならないと感じました。

京都大学 Y

